

令和 4 年度 学校教育目標	校訓『自律 創造 奉仕』の精神をもとに、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成
----------------	---

本年度の重点			年度末評価
	重点目標 及び 指標	重点的取組	評価 ○成果 ◆次年度に向けた方向性・改善点
子どもの「学び」に関すること	重点目標 アクティブ・ラーナーを育てる授業づくり 指標 <学校生活アンケート> ◆「授業では、課題の解決(めあての達成)に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」について、肯定的な回答をした生徒の割合[80%以上] ◆「学校の授業時間以外に、普段(月曜～金曜)、1日1時間以上勉強する」生徒の割合[60%以上]	重点的取組 ●4つの視点(①学び合いの「基盤づくり」②課題意識をもつ「めあて」の設定 ③考えを深める「話し合う活動」と「書く活動」④「まとめ」と「振り返り」は子ども自らの言葉で)をふまえた授業改善を、互見授業や計画的な校内研修会で、組織的に実践する。 ●4つの取組(①各教科での課題の提示 ②学級活動で「放課後の生活時間の見直し」をする ③生徒会活動による主体的な啓発・取組 ④家庭と連携した取組)を推進して、一人一人の「自律的学習の確立」を図る。	学び⑤ ○「授業改善シート」を活用しての「自己申告授業」を通して、アクティブ・ラーナーを育てる授業づくりを全職員で意識することができた。 ○「自主学习ノート」と「週末課題」の取組を通して、家庭学習の定着が全校で行えた。教師が提出の確認を徹底したことで、日々の習慣として定着することができた。 ◆家庭学習の定着は見られてきたので、今後は家庭学習の質と取り組む時間の改善に努める必要がある。
子どもの「心の育ち」に関すること	重点目標 認め合い、高め合う学級・学校づくり 指標 <学校生活アンケート> ◆「先生や友達はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上] ◆「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」について、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]	●全教科の授業で「振り返り」の時間の充実を図ったり、係活動や行事を通して個々の生徒を認めたりすることを全職員で実践し、生徒一人一人の自己有用感を育み、自己肯定感を高めるようにする。 ●話し合い活動や学校行事等、学校教育活動全体を通して、生徒相互の良さを認め合うようにする。 ●各学級で、学級目標を設定する等、学級会活動の充実を図る。	心の育ち⑤ ○生徒アンケート「先生や友達は、あなたの良いところを認めてくれている」と回答した生徒が85%と目標の90%には届かなかったものの自己肯定感の高まりが見られた。 ○不登校傾向にある生徒について、全職員や関係機関で連携と協働を行い、役割分担を行ったうえで対応したため、どのケースも大きな改善が見られた。 ◆話し合い活動は円滑に自分たちで行うことができるようになってきたが、自分の意見を明確に述べることを控える生徒が主体的に意見が言えるようになることが課題である。
子どもの「体力」に関すること	重点目標 日常的に運動に親しむ生徒の育成 指標 <学校生活アンケート> ◆「放課後や学校が休みの日に、部活動やスポーツクラブ以外で、運動をする」について、肯定的な回答をした生徒の割合[60%以上] ◆「保健体育の授業で、自分の動きの質が向上していることを実感することがある」について、肯定的な回答をした生徒の割合[70%以上]	●保健体育の授業において、振り返りシートやICTを活用して、自己評価や相互評価の場面で、できるようになったことを実感できるようにする。また、体力テストの結果ともリンクさせながら、課題の発見・解決に向けた個に応じたアドバイスをするなどして、自主的な学習活動を支援する。 ●日常的な運動習慣の確立について、生徒会活動や家庭と連携した啓発や取組を推進する。	体力⑤ ○日頃の体育科の授業において、どの単元においても運動量を重視した授業展開を実施することができ、「運動」「保健体育科の授業」に対して肯定的な回答をした生徒が100%となった。 ◆「放課後や学校が休みの日に、部活動やスポーツクラブ以外で、運動をする」については、肯定的な回答が40%と低く、今後は運動部活動や運動クラブに所属していない生徒に、日常における運動習慣を身に付けさせるかが課題である。
確かな学力の向上に関すること	重点目標 ICT活用および読書活動の推進 指標 <学校生活アンケート> ◆「学習の中でタブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと思う」について、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上] ◆「普段(月曜～金曜)、1日10分以上読書をする」生徒の割合[80%以上]	●教員・生徒双方のタブレット活用のスキルの向上や、ICTを効果的に活用した授業づくりを、環境整備も含めて、教職員全員で組織的に行う。 ●ドリルアプリを活用して、生徒の理解度に応じた「個別最適な学び」を実現する。 ●読書活動を推進する取組(①「朝の10分間読書」の推進 ②生徒会活動と連携した「学級文庫」「ミニ図書館」の運営 ③ブックトークなど、「本を読みたい」気持ちを引き出す取組の推進)を、教職員全員で組織的に行う。	ICT活用・読書活動⑤ ○「学習の中でタブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと思う」に対する肯定的な回答を示す生徒は、年間を通して90%以上を維持することができた。また、ドリルアプリ、デジタル教科書をどの生徒も使いこなし、授業や補充学習の際に大変役立った。 ○各階の「ミニ図書館」の模様替えをタイムリーに行ったため、立ち止まって読書に取り組む生徒の姿が見られた。 ◆教科等の授業において図書館の活用機会は増えてきたが、さらに活用頻度を増やすのが課題である。
人材育成・業務改善に関すること	重点目標 語り合い、助け合い、高め合う職場づくり 指標 <学校評価アンケート> ◆「校務分掌や学年の分掌に主体的に取り組んだり、会議や研修において積極的に意見を述べたりしている」教職員の割合[90%以上] ◆「業務に優先順位をつけて計画的に取り組む等、ワークライフバランスに努めている」教職員の割合[100%]	●校内職員研修を計画的(月1回、裁量時間を活用)に実施する。研修形態については、ボトムアップを取り入れて、全教職員が主体的に課題解決を図れるようにする。 ●校務分掌及び学校行事の取組についてのデータは、共有フォルダに保存し、活用しやすいようにデータの精選、整理を定期的実施する(年3回)。 ●会議の内容・人数を精選し、必要最小限度で行う。資料は協議する内容を明示し、前日までに校務支援システムのリビジョンでデータ配信しておく。 ●空き時間の有効活用、業務に優先順位をつけることで、時間外勤務時間の削減を図る。 ●教員相互に時間割を調整するなどして、計画的な年休取得を促進する。	語り合い、助け合い、高め合う職場⑤ ○「自己申告授業」をもとに、他教科の授業の中からそれぞれの教員が自分の教科に生かせそうなものを模索しながら、お互いに高め合おうとする姿が見られた。 ○「このメンバーで頑張ろう」を合言葉に、少ない教職員の配置の中で自分の分掌以外でも、気が付いた教員が手助けを行う職場となった。 ◆さらなる子どもと向き合う時間の確保やワークライフバランスの充実を目指して、「学校における業務改善プログラム<第3版>」を踏まえた業務改善を推進していく。

「学校運営協議会委員」等からの意見を記入	○読書活動の推進は良い取り組みだと思う。大蔵中学校は、作文コンクールへの出品等に力をいれていた時期があるので、作文や感想文等の書く活動も推進していけば、学力向上や読書の定着などの効果があると思う。
----------------------	--